

## 桜ニュータウン自主防災組織 防災講演会

---

### 地域力を高めよう

～世代を超えたコミュニケーションによる地域活性化～

常磐大学コミュニティ振興学部  
准教授 砂金祐年

---

1-①

## 自己紹介

---

- 砂金祐年(いさご・さちとし)
  - 常磐大学コミュニティ振興学部地域政策学科 准教授
  - 学位：博士(政治学)
  - 専門：政治学、コミュニティ政策、防災政策
  - 主な社会活動：
    - ・鹿嶋市「自治会別防災マニュアル」アドバイザー
    - ・鹿嶋市「地区公民館防災マニュアルシート」アドバイザー
    - ・日立市男女共同参画審議会副委員長
    - ・茨城県原子力広報懇談会メンバー
    - ・福島第一原発事故民間事故調査委員会WGメンバー
- 

1-②

## 今日お話しする内容

---

- 地域コミュニティがなぜ重要か？  
～ソーシャル・キャピタルという考え方～
  
  - 東日本大震災後の地域コミュニティ  
～地域の「きずな」はどう変化しているか？～
  
  - 地域コミュニティの力を向上させるためのヒント  
～キーワードは「防災」「子ども」「若者」～
- 

2-①

---

地域コミュニティがなぜ重要か？  
～ソーシャル・キャピタルという考え方～

---

2-②

## 地域コミュニティの力を測定する ～ソーシャル・キャピタルとは？～

定義は研究者様々だが、概ね以下の要素を含む

- ①住民同士の信頼関係がある(信頼)
  - ②住民同士に交流がある(交流)
  - ③地域の問題に自分たちで取り組む(積極性)
- 地域の絆

統計学的手法を用い、数値で測定できるところに特徴がある

3-①

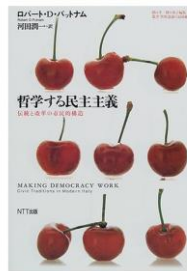
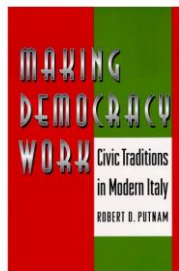
## そもそも、なぜソーシャル・キャピタルが 注目されるようになったのか？

R. Putnam “*Making Democracy Work*”(1993)

(ロバート・パットナム『民主主義を機能させるには？』)

【邦訳】河田潤一訳『哲学する民主主義』(2001)

→イタリアの20州の政策パフォーマンスの格差を分析



3-②

## パットナムの問い

- 政策がうまくいっている州(自治体)もあれば、うまくいっていない州もある
- うまくいく州がうまくいくのはなぜか？
- うまくいかない州がうまくいかないのはなぜか？
- その違いをもたらすものは何か？



パットナム

→パットナムはイタリア20州をもとに分析

4-①

## イタリア20州の政策パフォーマンス



北部: 全体的に政策パフォーマンスが高い  
南部: 全体的に政策パフォーマンスが低い

4-②

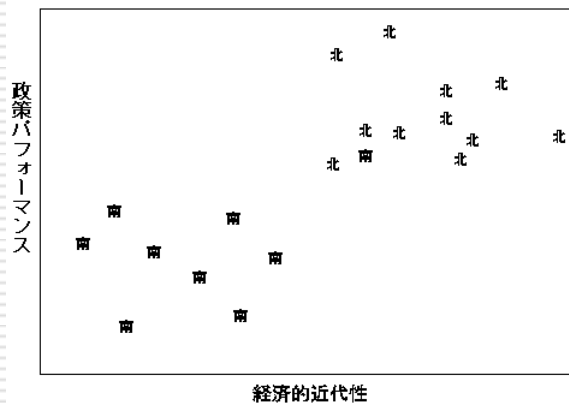
## 政策パフォーマンスの違いの原因

仮説1:

経済発展の水準や財政力が高い州は、  
政策パフォーマンスも高い

5-①

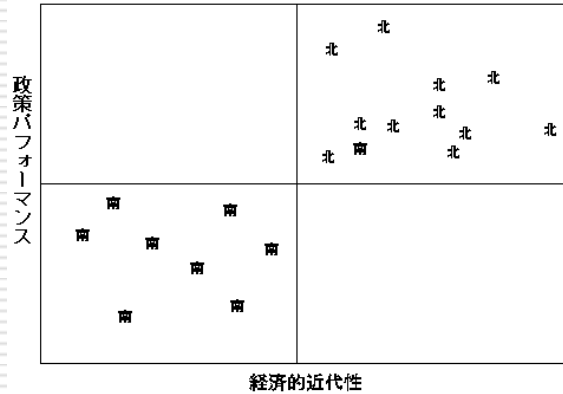
## 経済的発展度と政策パフォーマンスの関係



経済が発展している州ほど政策パフォーマンスが高いように見えるが

5-②

## 経済的発展度と政策パフォーマンスの関係



「北部だけ」「南部だけ」で見ると関係性が無い

6-①

## 政策パフォーマンスの違いの原因

他にも・・・

仮説2: **教育水準**が高い州ほど政策パフォーマンスが高い

仮説3: **都市化**が進んだ州ほど政策パフォーマンスが高い

→分析の結果、どれも関係が無かった

6-②

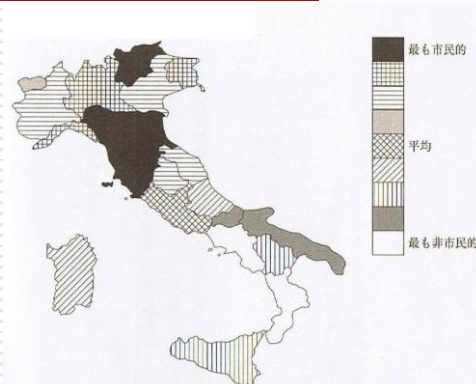
## 政策パフォーマンスの違いの原因

仮説4:

ソーシャル・キャピタルの高い住民が多い州ほど政策パフォーマンスが高い

7-①

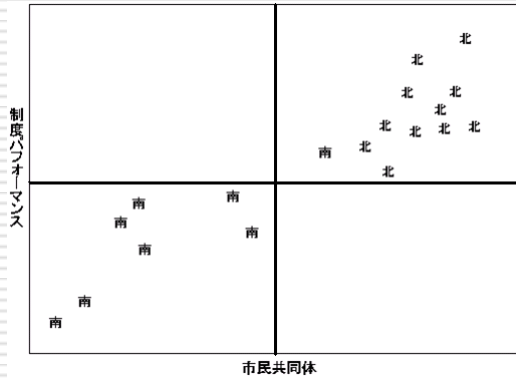
## イタリア20州のソーシャル・キャピタル



北部: 全体的にソーシャル・キャピタルが高い  
南部: 全体的にソーシャル・キャピタルが低い

7-②

## ソーシャル・キャピタル(地域の絆)と政策パフォーマンスの関係

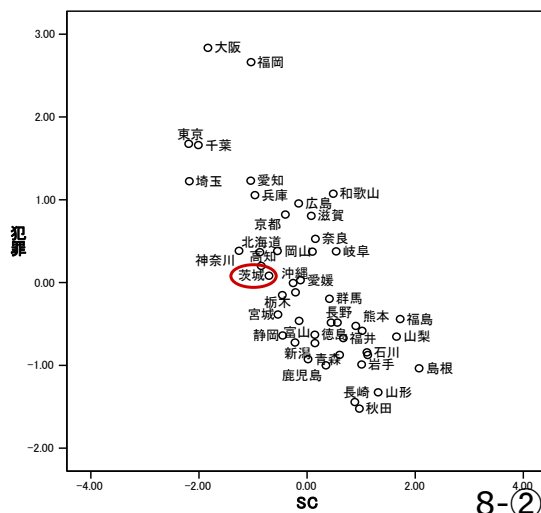


ソーシャル・キャピタルが高い州ほど、政策パフォーマンスが高い

8-①

## 犯罪率とソーシャル・キャピタルの関係 (47都道府県: 2004年)

- ソーシャル・キャピタル(SC)が高い地域ほど犯罪率は低い。
- SCが高い地域は顔見知りが多く、不審者の侵入が目立つ。
- 美化も進んでおり、犯罪を犯しにくい環境になっている。
- 雷おじさん？

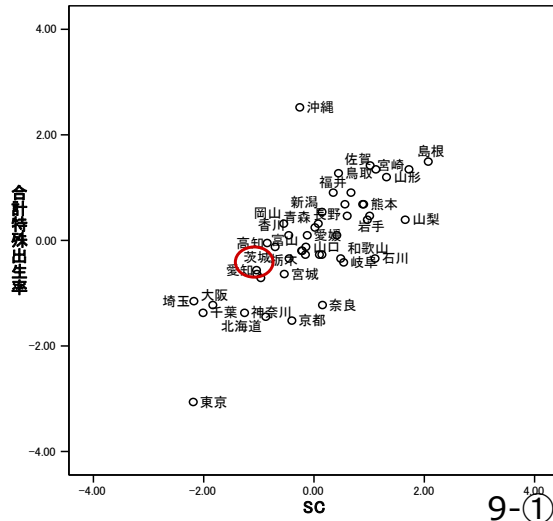


8-②



## 合計特殊出生率とソーシャル・キャピタルの関係 (47都道府県:2004年)

- SCが高い地域ほど出生率が高い。
- 知り合いに子どもを預けたり子育ての相談をするなど、育児がしやすい環境にある。
- SCが低い地域の共働きの家庭は子どもを作りにくい。



東日本大震災後の地域コミュニティ  
～地域の「きずな」はどうか変化しているか？～

## 絆～「きずな」と「ほだし」

- 「絆」
- 意味(読み方)①「きずな」
- 人と人との絶つことのできない繋がり。離れ難い結びつき
- 意味(読み方)②「ほだし」
- 人の心や行動の自由をさまたげるもの
- 経済成長にともない生活が豊かになると、「きずな」のメリットが目立たなくなり、「ほだし」の煩わしさが目立つようになった(とりわけ都市部・若年層に顕著)
- これまで地域コミュニティの中核を担ってきた自治会・町内会の加入率も低下傾向にある

10-①

## 阪神淡路大震災と「地域の絆」

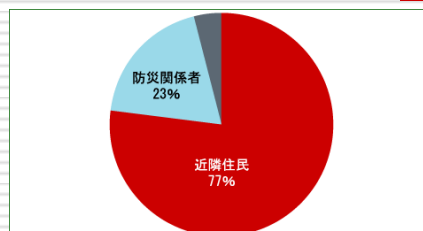
阪神淡路大震災(1995年1月17日)

当日家屋に閉じ込められた被災者のうちの被救助者:

約35,000名

消防・警察・自衛隊によって救助された人数:約8,000人

近隣住民によって救助された人数:約27,000人



10-②

## 東日本大震災と「地域の絆」

---

- 東日本大震災(2011年3月11日)
    - ・被災地各地で住民同士による避難・救助活動
    - ・水がある場所や支援物資に関する情報交換
    - ・避難所運営では「絆」が密なコミュニティがうまくいく
    - ・首都圏においても交通機関のマヒや計画停電で助け合い
  
  - テレビCMで「絆」が繰り返し流された
  - 年末の「今年の漢字」に「絆」が選ばれた
  - 「新語・流行語大賞」に「絆」がトップテン入り
- 

11-①

## 絆は弱まり続けているのか？ それとも、強まっているのか？

---

- 論点1: 地域コミュニティは衰退している
  - 論点2: 震災を機に「絆」の重要性を再認識
    - これらは矛盾する現象である
  
  - では、東日本大震災の前と後では、  
地域コミュニティの「絆」は弱まり続けている  
のか、それとも強まったのか？
- 

11-②

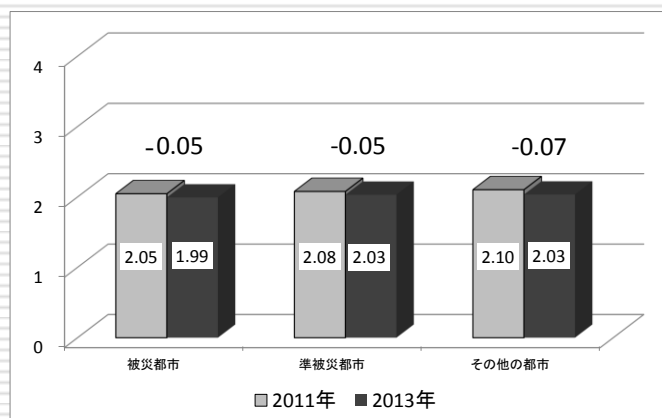
## 砂金の研究(2014):

国際行政学会(モロッコ)、全国都市問題会議(高知)

- 「都市住民の防災・危機管理意識に関するアンケート調査」
- 第1回:2011年2月17日~28日  
→10日後に東日本大震災が発生
- 第2回:2013年2月14日~19日  
→大震災の前後の防災意識の変化を比較
- 調査対象:  
被災都市: **仙台市**  
準被災都市: **さいたま市、東京23特別区、横浜市、川崎市**  
その他の都市: **札幌市、名古屋市、京都市、大阪市、  
神戸市、広島市、福岡市**

12-①

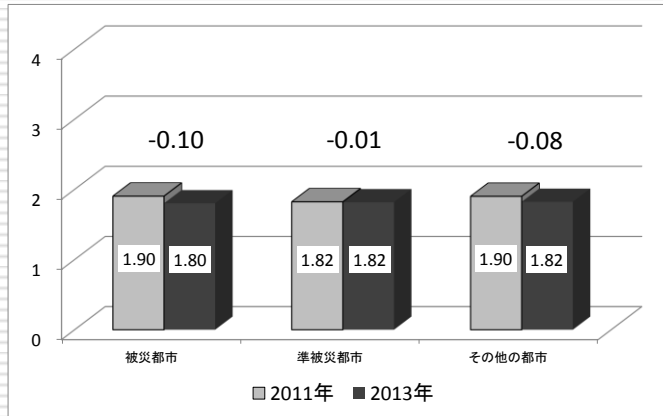
## 「あなたは近所の人と頻繁に付き合っていますか？」(4~1の4段階で回答)



どの都市も近所づきあいの頻度は**減少**(コミュニティの衰退)

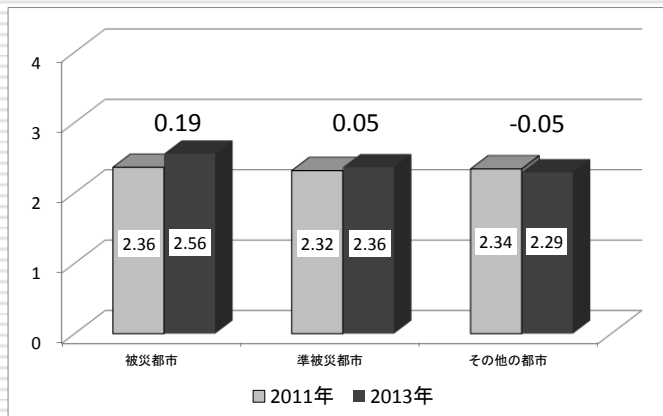
12-②

## 「あなたは地域行事へ積極的に参加していますか？」(4～1の4段階で回答)



どの都市も地元行事への参加頻度は**減少**(コミュニティの衰退) 13-①

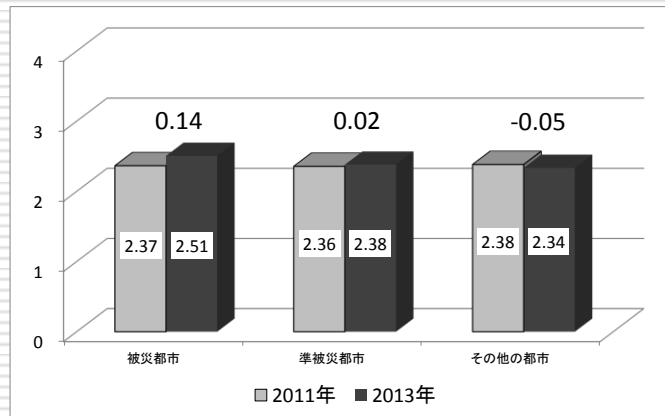
## 「災害時に近所同士で助け合えると思いますか？」(4～1の4段階で回答)



被災都市・準被災都市では**増加**、その他の都市は**減少**

13-②

## 「災害時に近所の住民は頼りになると 思いますか？」(4～1の4段階で回答)



被災都市・準被災都市では**増加**、その他の都市は**減少**

14-①

## 絆は弱まり続けているのか？ それとも、強まっているのか？

- 「近所づきあい」「地元行事への参加」はすべての都市で減少している
    - 地域コミュニティの衰退は続いている
  - 「災害の時に助け合えると思う」「災害の時に近所の住民は頼りになる」は
    - ・被災都市・準被災都市では増加している
      - **大震災をきっかけに「共助」の期待と信頼が高まった**
    - ・その他の都市では減少している
      - 地域コミュニティの衰退と同じ動き
- 東日本大震災を経験した今こそコミュニティ再生のチャンス**

14-②

---

## 地域コミュニティの力を向上させるためのヒント ～キーワードは「防災」「子ども」「若者」～

---

15-①

### 東日本大震災における地域 例：大津小学校避難所（北茨城市大津町）

---

- 避難者の中からボランティアが組織され、炊き出しのための鍋や燃料、食材の調達が独自に行われた
- 避難した人々は家から食料などを持ち寄った。近くの畑の持ち主からは野菜が、燃料店からはガスコンロが届いた
- 避難所から家に戻った人々は、その後も避難所に食材などを届けた

考察：

- キーパーソンを通じたインフォーマルなネットワーク
    - ・組織Aのリーダーと組織Bのリーダーが知り合い
    - ・組織Cと組織Dの両方のメンバーである人が仲介
- 

15-②

## ある中学校での防災教育の事例

---

- 中学校で防災に関するグループワークを行った
- テーマ:「避難所で食糧が足りなくなった時、どのような優先順位をつけて配布するか？」
- **発表会には父兄や祖父母が集まった**
- あるチームの発表「高齢者から優先的に配布すべき」
- フロアの高齢者の発言「若い人を優先すべき」  
→**フロア全体で議論になった**
- 最終的には「だからこそ、一人ひとりが事前に準備しておくべき」という結論に至った

---

16-①

## 常陸大宮市「ウダーベ音楽祭」

---

- 常陸大宮市にはかつて38の小学校があったが、統廃合で現在は11校に
- 市制10周年記念事業として、廃校も含めたすべての小学校の校歌を歌う「**ウダーベ音楽祭**」が開催された
- 小学校の校歌
  - ・**年代を超えて歌うことができる**(意外と覚えている)
  - ・**地区・集落単位で集まることができる**
- 数か月前から集まって練習をした
- 当日は市の文化センターが満員になるほど盛況
- 終了後は、それぞれの小学校ごとに打ち上げ会を行った

---

16-②



## 常陸大宮市「ウダーベ音楽祭」



17-①

## 大学生の活用

- まちづくりに必要な人材  
「よそ者」「若者」「馬鹿者」  
→大学生はすべてを満たしている
- 砂金ゼミナールの今年度の活動
- 茨城町鳥羽田地区で三世代交流型のイベントを企画、  
昨年度から実施  
→子ども会との調整・連携が不可欠
- 行方市北浦公民館で、避難所宿泊体験をサポート。小学生の参加者に楽しみながら防災を学んでもらうため、ジャンボかるたを作成

17-②